

公益社団法人
岐阜県森林公社

COMPANY

地球温暖化の緩和、森林が水を貯える機能といった森林の多面的機能を高度に発揮させるため、森林の整備を行っている。

住所 岐阜県美濃市生柳1612-2
TEL 0575-33-4011
WEB <https://gifu-shinrin.or.jp/>

森林が吸収する温室効果ガスの量を「クレジット」として発行！

脱炭素社会のためのJ-VER制度とは？

平成20年に環境保全を目的に環境省が開始した制度です。省エネルギー設備などによる温室効果ガス(CO₂等)の排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂等の吸収量について売買可能な「クレジット」として国が認証する仕組みです。排出事業者等が削減したいCO₂等の量に相当する「クレジット」を購入することで、排出量を埋め合わせることができます。これを「カーボン・オフセット」といいます。平成25年に経済産業省・環境省・農林水産省が運営するJ-クレジット制度に移行しました。

具体的な取組みは？

岐阜県森林公社は、昭和40年代前半から植林を行い、1万4千haの森林を管理する団体です。平成24年に、郡上市大和町、本巣市、加茂郡白川町の造林地で間伐プロジェクトに基づくJ-VER制度の認証を受けました。脱炭素社会実現のためには、森林のCO₂等吸収能力は非常に重要です。引き続き、間伐によって健康な森を育て、CO₂等吸収量を増やす取組みを行っています。

今後の展望は？

現時点では、CO₂等排出量の削減を果たす法的義務はありませんが、国の「2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする」とのカーボンニュートラル宣言以降、クレジットの問い合わせが増加しています。現在、新たなクレジットの認証を受けるための測量や解析作業を行っていますが、森林経営計画に基づく森林管理が前提となります。適切な森林管理により温室効果ガスの吸収などの公益的機能が持続的に発揮されるよう努めていきます。



1 植林後、約50年のヒノキ。間伐してあり綺麗に並んでいる。2 幹の太さを測り、成長を確認する様子。3 「クレジット」購入者に贈呈するヒノキの感謝状。

岐阜県は全国有数のヒノキ生産地のため、当公社の植栽も半数以上をヒノキが占めています。加工性に優れ、シロアリなどに対する耐久性もあり、木材の価格が高いというメリットもあります。



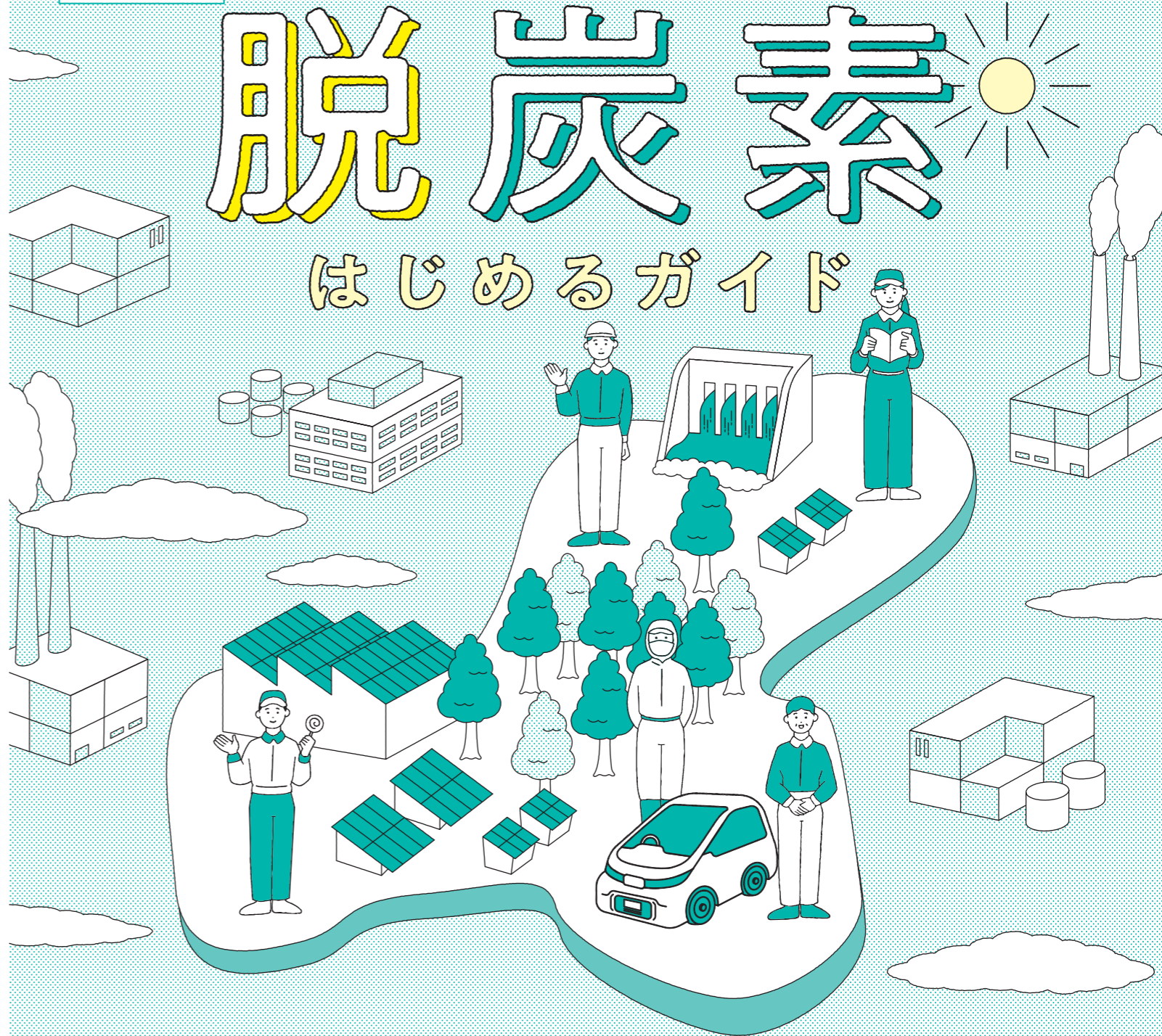
脱炭素化の取組みを
YouTubeで配信中！



清流の国ぎふ

脱炭素

はじめるガイド



脱炭素経営って何から始めたらいいの？

令和2年10月の国による2050年カーボンニュートラル宣言以降、脱炭素化に向けて多くの企業が積極的に取組みを進めています。「そもそも、脱炭素ってなんだろう?」「何から始めたらいいのだろうか?」「みんなはどんなことをしているのだろうか?」そんな疑問を持っている皆さんに向けて、岐阜県内で脱炭素化に取り組む事例をパンフレットと動画で詳しく紹介します。

そもそも“脱炭素”ってどういうこと？

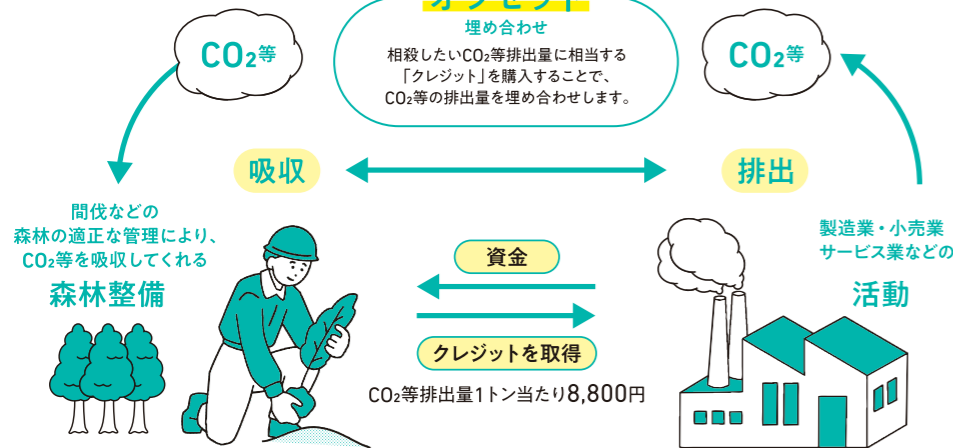
温室効果ガスであるCO₂(二酸化炭素)などの排出量を削減する取組みのことです！

「脱炭素」とは、地球温暖化の原因となっているCO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量を削減するための取組みを指します。現在は、将来の世代が安心して暮らせる環境保全のために、省エネ化や再生可能エネルギーの活用など、さまざまな方法で「脱炭素経営」に取り組む企業が増えています。また、排出したCO₂を吸収する作用が得られる植林や森林管理といった森林保全活動にも取り組まれています。

オフセット

埋め合わせ

相殺したいCO₂等排出量に相当する「クレジット」を購入することで、CO₂等の排出量を埋め合わせします。



CO₂等排出量1トンとは？



公益社団法人 岐阜県森林公社

TEL 0575-33-4011 内線 413

豊かで親しみのある森林づくり
飛騨と加賀を結ぶ白山白川郷ホワイトロード

《お問い合わせ》 TEL058-272-8835

岐阜県商工労働部 商工・エネルギー政策課

※令和4年3月までは、新産業・エネルギー振興課

発行：令和4年3月 〒500-8570 岐阜県岐阜市藪田南2-1-1



脱炭素って？

実際に聞いてみた！



脱炭素経営により、期待されるメリット

- 1 自社ブランドの競争力強化
- 2 光熱費・燃料費のコスト削減
- 3 社員のモチベーション向上

このパンフレットでは岐阜県内の5つの事業者のさまざまな事例を通して、脱炭素に取り組んだきっかけや取組内容、メリットなどをご紹介します。導入にコストが必要な場合もありますが、専門家に相談して自社内設備を調整するだけで脱炭素化やコスト削減に成功した事例もあります。まずは、できることから始めてみましょう！

脱炭素の取組みについての詳細はYouTubeで公開中！ぜひ、QRコードを読み込んで動画もご覧ください。



CASE 1

山中製菓株式会社

COMPANY

創業は昭和9年。徹底した品質管理のもとで飴づくりの可能性を追求し、自社製品からオーダーメイド製品まで、さまざまな商品を製造している。

住所 岐阜県岐阜市西荘4-3-19
TEL 058-251-3852
WEB <http://www.yamanaka-seika.co.jp/>

品質向上のための施策が、“CO₂を出さない飴づくり”に変化！



きっかけは？

創業以来、ガスで鍋を炊いて作る昔ながらの製法で飴づくりを行っていました。品質向上を目的に、異物混入防止対策として工場の窓を撤廃したところ、工場内の室温が今までよりも上昇。改善のために、工場内の設備をオール電化へ転換しました。

具体的な取組みは？

オール電化への転換に向け、まずは、ガスを使わずに飴を炊くための鍋を探し、試行錯誤した結果、電気ですりこぼれを防ぐのにぴったりな鍋と出会うことができました。平成19年には工場内をオール電化へ転換。それに伴い工場内の室温が低下し、きちんとした白衣の着用が可能になり、快適な環境での飴づくりが実現しました。これは若い方の就職率や勤続年数向上に繋がっています。従来と比較して18%のCO₂排出量削減に至り、エアコンの稼働力縮小などにより、ガスを含めたエネルギーコスト削減にも成功しました。さらに令和3年には、工場で使用している電気を全て再生可能エネルギーとするRE100 (Renewable Energy 100%)を実現。これにより、電力消費による工場からのCO₂排出量ゼロ(排出係数ゼロ)を達成しました。



1 電気鍋で炊いた飴を流し込む様子。2 快適な温度の環境、電熱線のもとで飴づくりを実施。3 CO₂排出量ゼロの工場で作られた飴。



オール電化にした結果、快適な職場環境、電気代の節約と、スタッフと工場の双方へのメリットを得ることができました。これからも、会社として何ができるかを考え、取り組んでいきたいと思っています。



代表取締役
中西 謙司 さん

脱炭素化の取組みをYouTubeで配信中！



今後の展望は？

品質向上かつ快適な職場環境となったことで、さまざまな取引先から多くの注文を頂くようになりました。現在、CO₂を出さない飴づくりをしていますが、まだ消費者の方々に、こうした脱炭素化の取組みが伝わっていない点が今後の課題だと感じています。このような背景も含め、皆さんに選んでいただけるような飴づくりを展開していきたいです。

CASE 2

株式会社秋田屋フーズ 洞戸工場

COMPANY

養蜂全般および蜂製品の製造・販売を行う株式会社秋田屋本店から分社化され、食品製造業を営む秋田屋フーズ。洞戸工場では清涼飲料チアーバックを生産。

住所 岐阜県関市洞戸飛瀬106-1
TEL 0581-58-7038
WEB <https://www.akitayahonten.co.jp/>

事業者向け省エネ診断に基づく改善により、年間約500万円の削減効果！

2つの製造ラインを持つ秋田屋フーズの洞戸工場では、平成31年に国から第2種エネルギー管理指定工場の指定を受け、社内で省エネに取り組むも目に見えた効果が見込めず、手詰まりを感じていました。そこで、令和元年に岐阜県省エネ相談地域プラットフォームが主催する省エネセミナーを受講。省エネ診断に基づいてボイラーやコンプレッサーの運転方法の見直し、ポンプの駆動モーターインバーター制御化などの改善を実施することで、年間CO₂排出量136t、光熱費約500万円の削減ができました。



社員の省エネに対する意識が向上し、さらなる改善へのモチベーションに繋がっています。今後は、新たに導入したRPFボイラーを活用し、廃棄物のエネルギー化による脱炭素化に取り組んでいます。



1 LED照明化された、清涼飲料チアーバック製造ライン。2 古紙や廃プラスチック類を主原料とした固形燃料をエネルギーに変えるRPFボイラーを導入。



工場長
塩野 谷学 さん

脱炭素化の取組みをYouTubeで配信中！



CASE 3

大洞印刷株式会社

COMPANY

クリアファイルを中心とする特殊印刷・加工に特化した印刷会社。小ロット多品種対応で、ノベルティやキャラクターグッズの制作も手がける。

住所 岐阜県本巣市下真桑290-1
TEL 058-320-5123
WEB <https://www.obora-pri.co.jp/>

グリーンナノを使ったクリアファイル開発で、最終焼却処分時のCO₂排出量を約3割削減！

当社は企業として社会に貢献できることはないかと常に自問し続けてきました。脱炭素化に向けては、社内の照明のLED化に始まり、CO₂排出量ゼロのゼロエミッション電源の導入、令和3年にはグリーンナノを活用したクリアファイルを素材メーカーと共同開発。外見や使用感は従来と変わらず、最終焼却処分時のCO₂排出量を約3割削減することを実現しました。今後も、印刷ロス削減強化や工場から廃棄される端材のリサイクル強化、社用車の電気自動車化などを通して、脱炭素社会に貢献していきます。



クリアファイルは回収する仕組みがないため、再利用ではなく焼却処分を前提に考え、新素材を開発しました。環境にやさしいものを使うことで使う人も社会に貢献することができます。



1 グリーンナノクリアファイルのほか、ペーパーファイルも企画・制作。2 大量に安定して印刷でき、ロスが極めて少ない、デジタルオフセット印刷機。



専務取締役
大洞 広和 さん

脱炭素化の取組みをYouTubeで配信中！



CASE 4

株式会社エネファント

COMPANY

電気を「創る」再生可能エネルギー事業、創った電気を「配る」小売電気事業、電気自動車を蓄電池として電気を「蓄える」レンタカー事業に取り組んでいる。

住所 岐阜県多治見市下沢町3-35-1
TEL 0572-26-9336
WEB <https://enephant.co.jp/>

まちがより豊かに生まれ変わるためにエネルギーの新たな価値を創造！

使用するエネルギーの脱炭素化、最適化をプランニングして提案する事業を行っています。開発した太陽光パネル付カーポートは、令和2年より無料設置の事業化を開始。災害時の電力確保が可能な拠点として、地域に約200か所設置しました。また、移動可能なコンテナタイプのカーポートも開発し、シェアサイクルに活用する電動アシスト自転車、カーシェアに活用する小型EVへの充電拠点として普及を進めています。まちのエネルギーをより安く、持続可能な形で継続していくために、電力の需要と供給のバランスをみて、最適なエネルギーの活用方法を提案しています。



人の流れを分析して、必要な箇所にカーポートを設置し、この地域のニーズに応えられるような取組みを行っています。EVのカーシェアリング事業も行っています。



1 太陽光パネル付カーポート。災害時には電力供給が可能。2 コンテナ型のカーポート。容易に設置ができ、移動も可能。



代表取締役
機崎 三司 さん

脱炭素化の取組みをYouTubeで配信中！

